

デニースは幸せの象徴みたいなものでそれで

デニースは幸せの象徴みたいなものでそれでもわたしは、
壊れきっていると分かってたそもそも最初から存在しなかった父と娘という関係をどうにか修復
しようとしていた、のかも。
制服はフリフリで子供はおもちゃをねだっていてわたしは味のしないデビルズブラウニーサンデー
を口に運ぶ作業をもくもくとなしていた。
父親はコーヒーをおかわりして、どんな顔だったかなあ、あまり思い出せないけど苦々しいよう
な照れくさいような感じでわたしを見ていた。
お母さんによく似ているね。とかなんとか言ったかもしれない。
意味の無い時間だった。
なにも変わらなかった。
でも絶対に必要な時間だった。